

# おたふくかぜワクチンの 定期接種化に関する要望について

予防接種推進専門協議会

岩田 敏

厚生労働省 健康局 健康課長

正林 督章 殿

予防接種推進専門協議会

委員長 岩田 敏



## おたふくかぜワクチンの定期接種化に関する要望

### 参加学術団体（17団体）

（公社）日本小児科学会、（公社）日本小児保健協会、（公社）日本小児科医会、  
（公社）日本産科婦人科学会、（公社）日本産婦人科医会、（一社）日本保育保健協議会、  
（一社）日本感染症学会、（一社）日本呼吸器学会、（一社）日本渡航医学会、  
（一社）日本耳鼻咽喉科学会、（一社）日本プライマリ・ケア連合学会、  
（一社）日本環境感染学会、（一社）日本老年医学会、日本ワクチン学会、日本ウイルス学会、  
日本細菌学会、日本臨床ウイルス学会（順不同）

# 要望書提出の背景

1. 日本耳鼻咽喉科学会の調査によれば、おたふくかぜによる難聴の疾病負担について、これまで過小評価されていた可能性がある
2. おたふくかぜワクチン接種後の副反応として問題となる無菌性髄膜炎の発生頻度は、最近の調査では低下している
3. おたふくかぜワクチンの接種対象となる3歳未満の小児では、おたふくかぜワクチン接種後の無菌性髄膜炎の発症頻度が低いことが報告されている

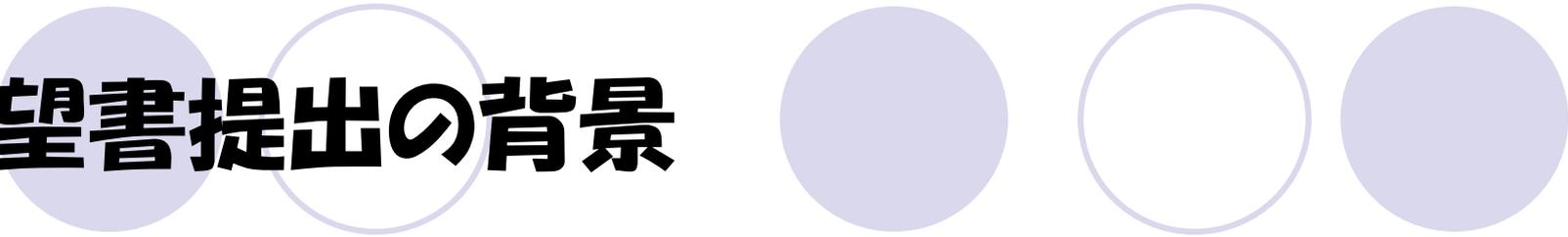
# 要望書提出の背景

1. 日本耳鼻咽喉科学会の調査によれば、おたふくかぜによる難聴の疾病負担について、こ

2. **リスクベネフィットの観点から、  
おたふくかぜワクチンを  
早期に定期接種として  
導入する必要がある**

3. 種後の無菌性髄膜炎の発症頻度が低いことが報告されている

# 要望書提出の背景



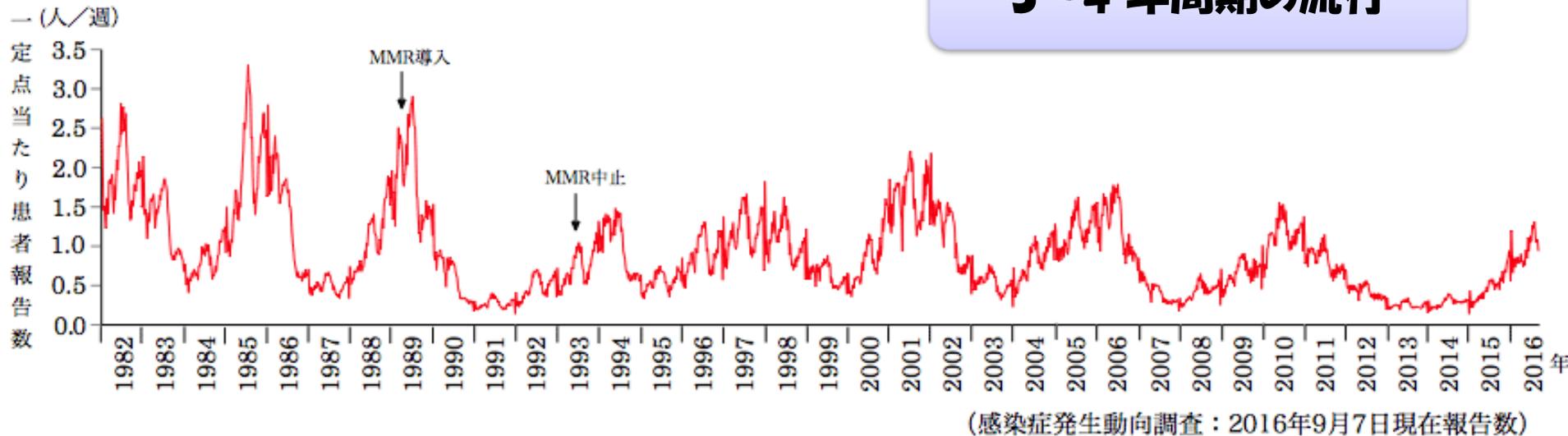
- これらの3点より、リスクベネフィットの観点から、おたふくかぜワクチンを早期に定期接種として導入する必要がある

# 流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)



# 流行性耳下腺炎患者報告数の推移の年齢分布 (1982年第1週～2016年第35週)

3～4年周期の流行

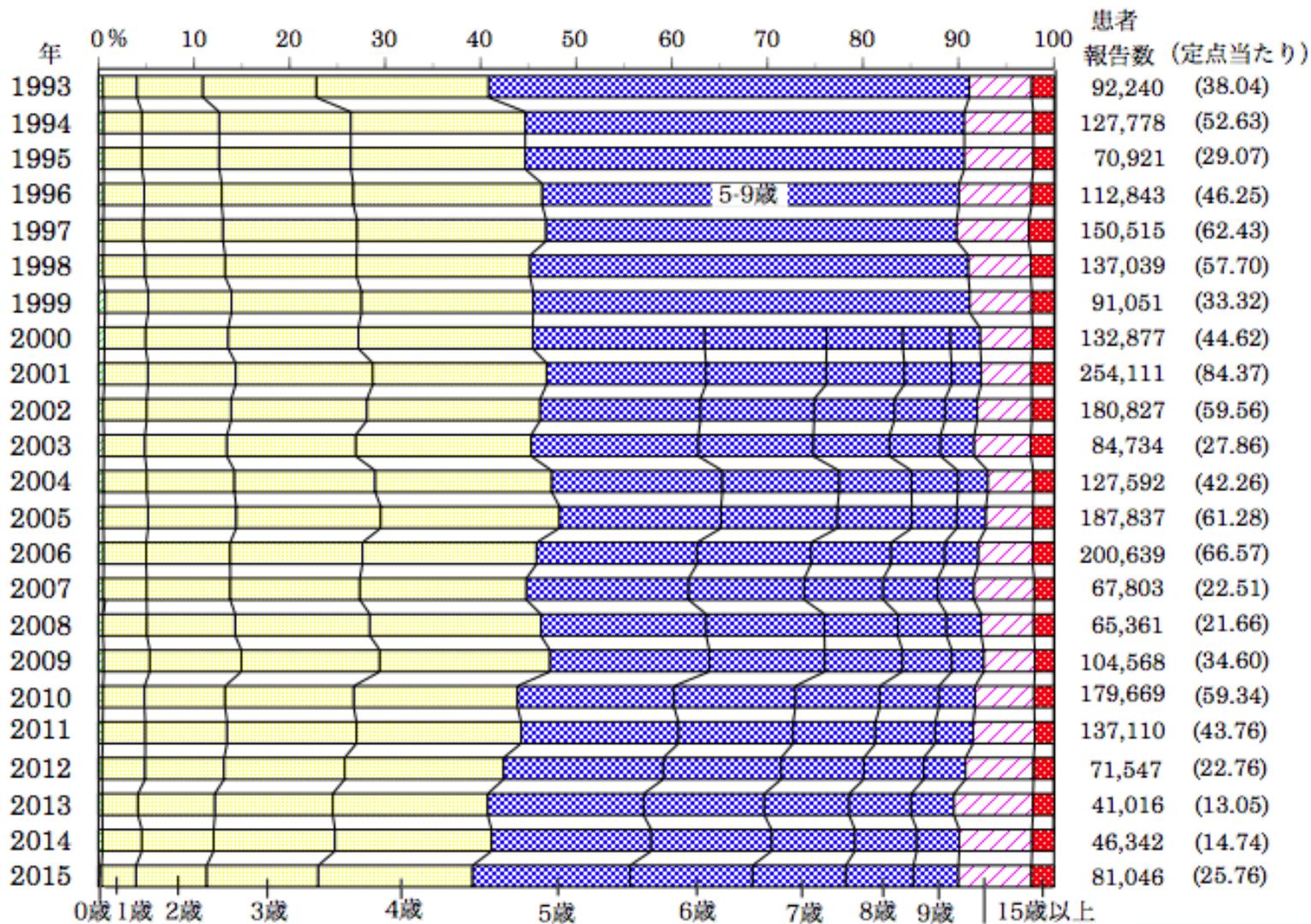


接種率：30-40%

IASR  
Infectious Agents Surveillance Report

# 流行性耳下腺炎患者の年齢分布(1993-2015年)

<https://www.niid.go.jp/niid/images/iasr/2016/10/440tf02.gif>



\*小児科定点からの報告 10-14歳

(感染症発生動向調査: 2016年 9月7日現在報告数)

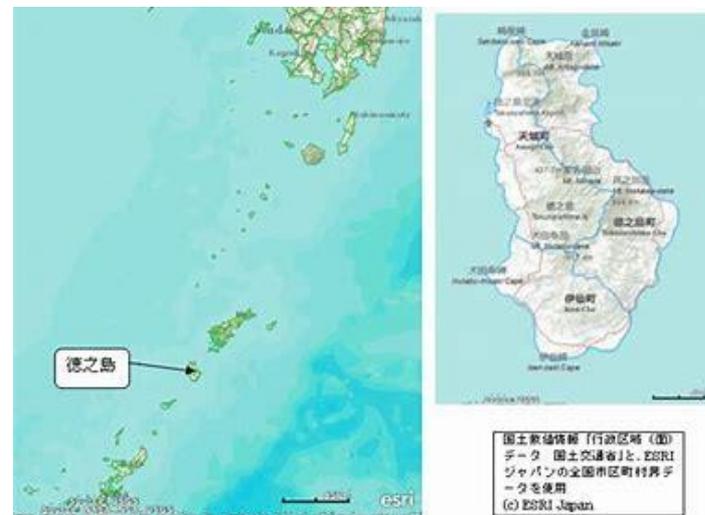


# 流行性耳下腺炎の定点あたり報告数



# 鹿児島県徳之島における 流行性耳下腺炎の疾病負担

- 2015年7月1日～2016年6月30日の1年間
- 島民25,104人のうち1,191例の患者(4.7%)
- 10歳未満の小児に限れば、年齢別人口の3分の1以上が罹患
- 合併症
  - 髄膜炎: 24例(2%)
  - 精巣炎: 8例(0.7%)
  - 難聴疑: 2例(0.17%)



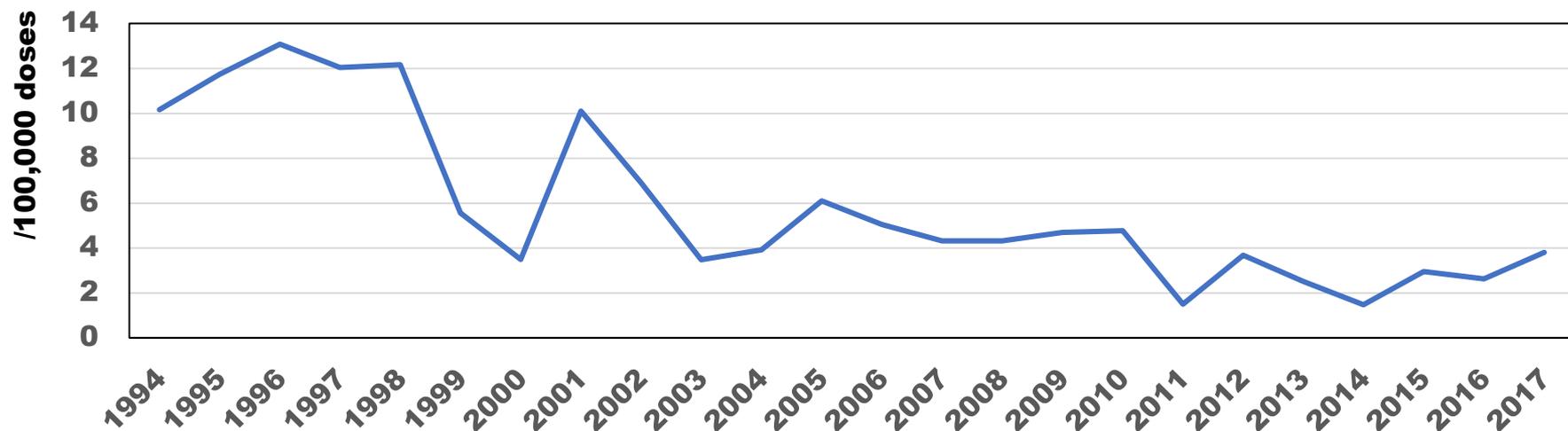
# おたふくかぜ含有ワクチン接種後の 無菌性髄膜炎

- MMR: 0.11~0.2%
  - 添付文書(鳥居株, 星野株):
    - 0.043~0.063%
  - 最近の国内前方視的研究\*:
    - 3歳未満: 0.018%
    - 3歳以上: 0.078%
- cf. ムンプス自然罹患では約80人に1人(1.27%)が髄膜炎を発症

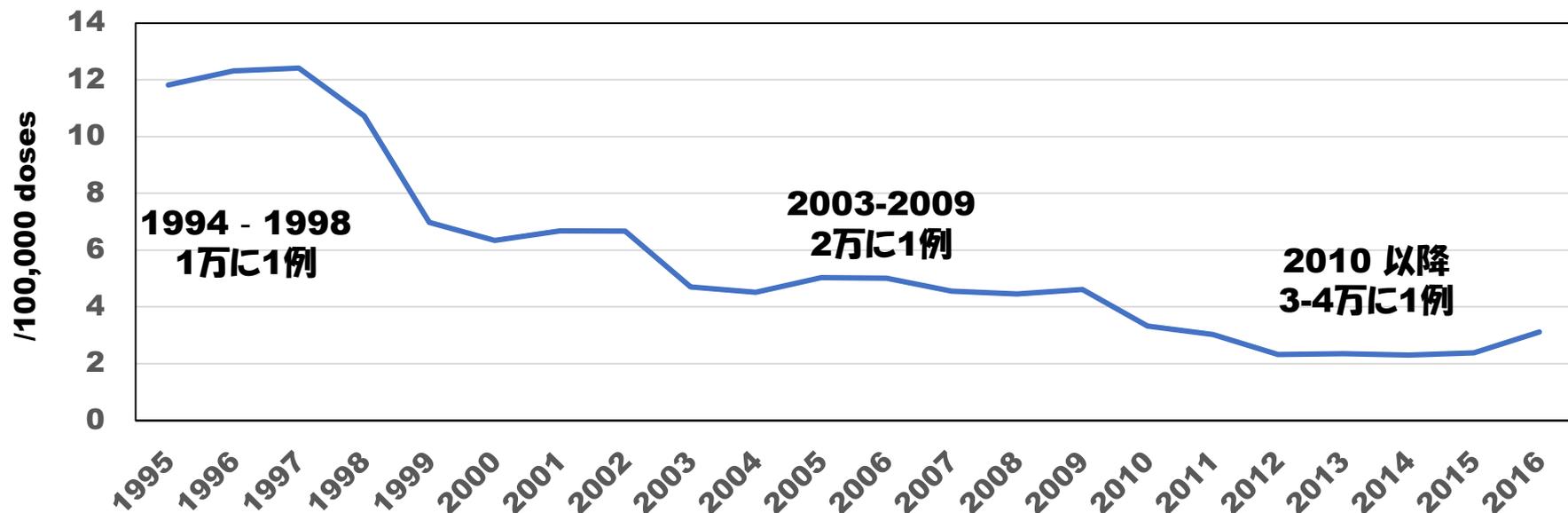
\*Muta H: Vaccine 33, 6049-53, 2015

# おたふくかぜワクチン(星野株)接種後の無菌性髄膜炎の出現頻度 (製造販売後調査)

## 各年度ごとの無菌性髄膜炎の頻度

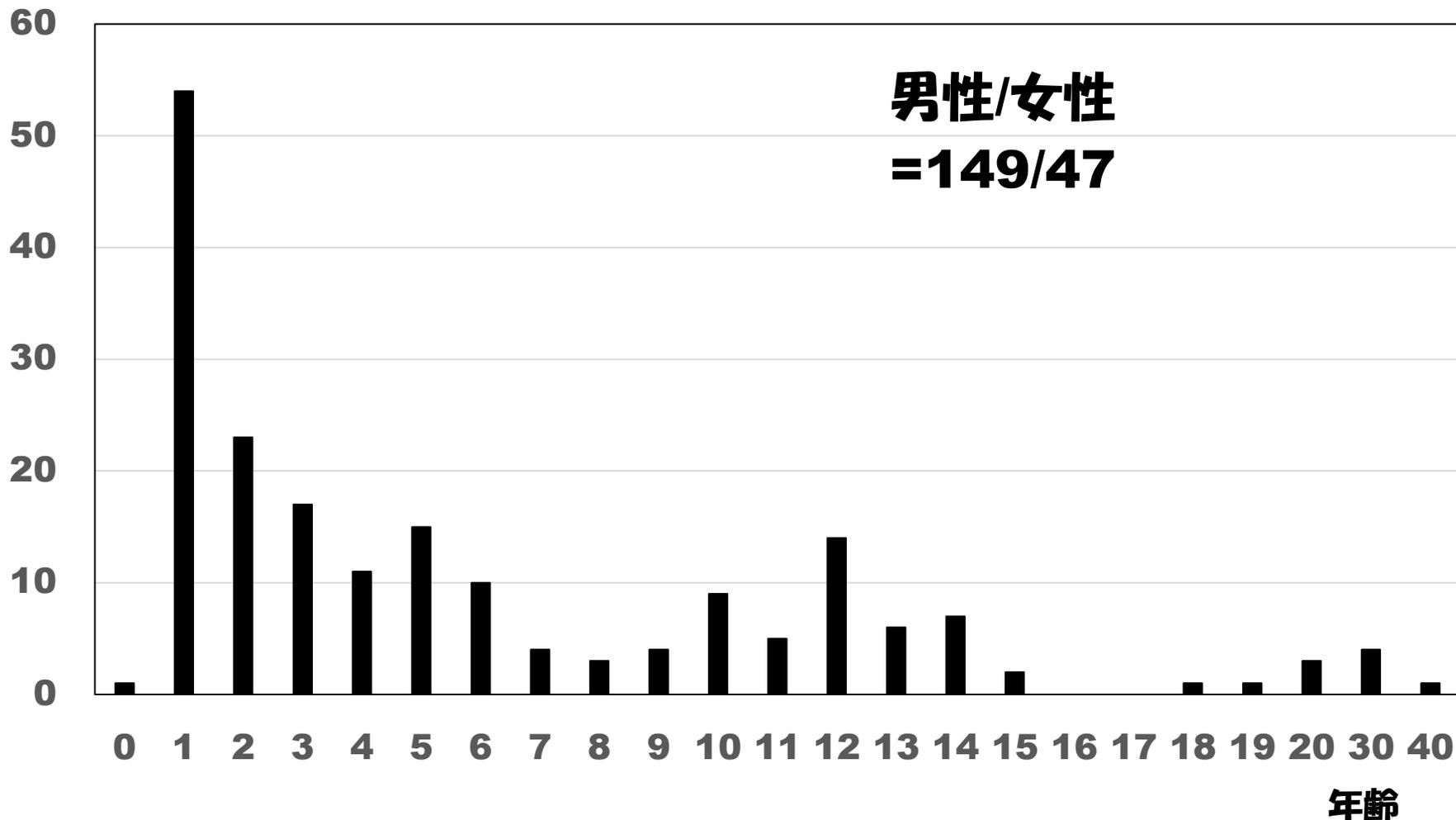


## 3年毎の無菌性髄膜炎の平均報告頻度



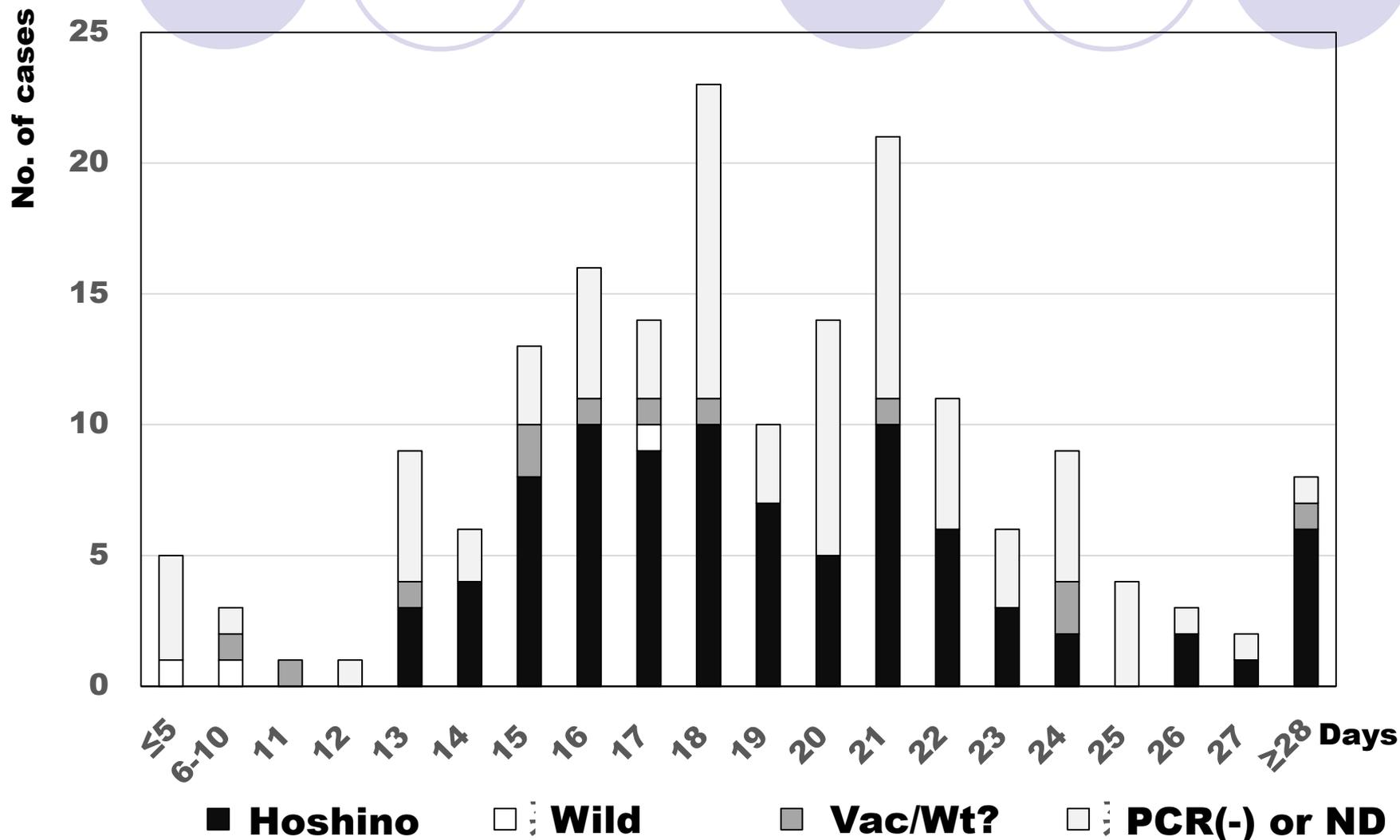
# おたふくかぜ含有ワクチン(星野株)接種後の髄膜炎の発症年齢 (製造販売後調査) (n=195)

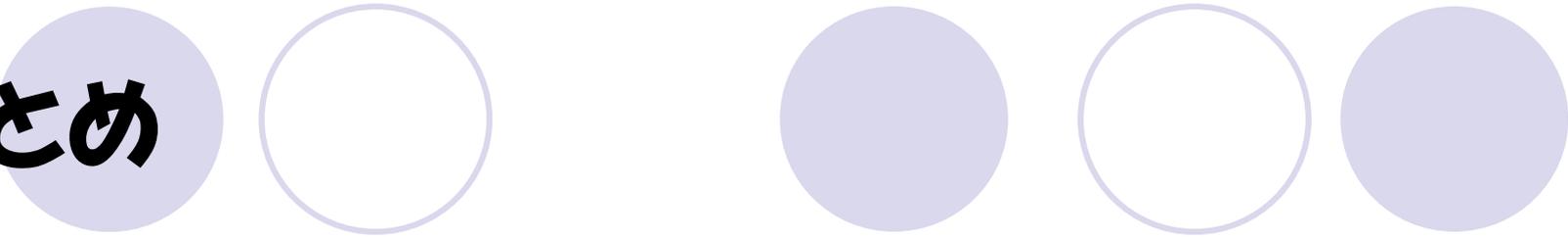
症例数



ムンプスワクチン製造量：6,026,692ドース(2003-2017)

# おたふくかぜ含有ワクチン(星野株)接種後の 無菌性髄膜炎の症例数 (接種後日数別)





# まとめ

おたふくかぜ含有ワクチンは、一定の頻度で接種後の無菌性髄膜炎を発症する可能性はあるが、おたふくかぜの疾病負担を考慮した場合、十分なりリスクコミュニケーションを行った上で、おたふくかぜ含有ワクチンを定期接種として広く接種することは、有用であると考え